

R3学校評価のまとめ(考察)

☆国分寺中学校区として質問を統一して2年目の「教育活動についてのアンケート」。今年度は初めてWeb形式で実施しました。保護者の皆様には、お忙しい中ご協力をいただきありがとうございました。それぞれの質問項目の回答を4点満点で点数化し、質問が変わらなかったものについては過去3年間を振り返っての状況や昨年度との比較にも触れながら、結果について確認したいと思います。

☆質問1から5は、学習習慣についての質問項目です。学習に対する理解の度合いや取り組む姿勢については、児童と教職員の点数は昨年度と比較して同程度ですが、保護者の評価は全項目で過去最高となりました。低学年では自己評価が高く、学年が上がるにつれて低くなっていく傾向が見られます。また、例年、保護者の点数が低く、児童や教職員の点数との差が大きかったのですが、少しずつその差が少なくなってきています。

本校では、「『主体的・対話的で深い学び』の実現する授業を目指して」を学校課題とし、学習を支える能力の育成に力点を置いた研究に取り組んで3年目になります。質問1「**授業は楽しくてわかりやすい**」、2「**他の意見を聞き、協力して学習する**」の児童や教職員の点数が昨年度、3年間で最も高い数値となりましたが、今年度も同様の傾向がみられました。また、質問3「**家庭学習の習慣**」の数値については、児童の数値は低くなったものの、保護者と教職員の数値が高くなっています。小中一貫として今年度2回行った「家庭学習協調週間」における家庭学習カードの実施や家庭学習における参考となる自主学習ノートの掲示等により、例年よりも家庭学習の習慣が身に付いてきたと感じる保護者や教職員が増えたのではないかと考えられます。今後も学校での授業の学びを家庭でも生かせるように努力していきたいと思えます。

また、**読書や家庭学習の習慣**については、これまでの「家読りレー」について見直しを図り、家庭での協力を得られるような形で新たな「家読」の提案を行いました。小中一貫の取組として小中で同一日に「家読」に取り組んだり、「家庭学習協調週間」における調査票の改善や実施方法について見直しを図ったりしてきました。読書を含めた家庭学習の在り方やゲーム・インターネットの利用時間等について、子供たちに継続して指導していく必要性があると考えます。今後も、家庭学習に対する支援や読書活動を推進する内容や方法を検討していきますので、ぜひ、家庭でも学習することの大切さや読書の楽しさについて話し合っていたいただきたいと思います。

☆質問6から10は、学校や家庭におけるきまりを守ることや、係・役割の分担、行事などへの取組についての質問項目です。児童の点数については概ね例年と同様な傾向が見られ、保護者の評価は全項目で過去最高の数値となりました。しかし、教職員の点数は、質問6「**きまりを守る**」と8「**清掃**」で過去最低の数値となりました。これまで学校や学級という場で、与えられた係や当番の仕事や清掃など、児童は真面目に取り組むことができると回答していた教職員は多かったのですが、子供の様子から「やる(守る)児童とやらない(守らない)児童の差が大きい」と感じた教職員が多かったようです。

質問10「**学校行事への取組**」については、昨年度は多くの行事が中止となり規模縮小で実施したものが多かったのですが、今年度は、ほとんどの行事を実施することができたこともあり、児童・保護者・教職員ともに9割の高い数値となりました。学校行事は、児童にとって楽しみにしていることでもあり、教職員にとっては、児童の成長を促すとても大切な活動になっています。今後も、感染症対策をしっかりと行いながら、次年度はさらに実施できる行事が多くなるよう検討していきたいと思えます。また、質問7「**早ね・早起き・朝ごはん**」は、小中一貫として「生活習慣チェックカード」を見直して実施したこともあり、保護者と教職員で数値が高くなりました。小学校では非常に大切な3つの活動ですので、児童の意識を高めるとともに目安となる時刻の設定等も含め、今後も家庭での声掛けやご協力をお願いします。

学校では、「言われなくてもやるべきことはやる」、「自分のことは自分でする」、「人のために役に立つことを進んでやる」力を育てようと日々生活しています。これらの力を伸ばすことは、家庭や地域でも実践できる力となることから、さらに子供たちが取り組めるように努力していきたいと思えます。学校だけでなく、ぜひ家庭でも、自分の身の周りの整理整頓や家庭での手伝い分担など、家族の一員として努力すべき課題を設定し、励まし、認めてほめる働きかけに努めていただければと思えます。学校と家庭が協力して「誰かの役に立つことに喜びを見いだせる子供」に育てていきたいと願っています。

☆質問11から15は普段の生活の様子に関わる評価項目です。あいさつや言葉遣い、健康管理や交通ルール等の遵守については、これからの時代を生きていく上でも非常に大切なことです。質問11「**挨拶**」について、児童・保護者・教職員ともに数値が3年間で最も低い数値となりました。これまでは、保護者の皆様から「子供たちから挨拶しない」、「挨拶しても返ってこない」などという意見がありましたが、今年度は、教職員から見ても、児童自身も挨拶ができていくという回答が少なくなっていました。いろんな場面で「自分から進んで」、「よく聞こえる声で気持ちよく」、「学校だけでなく登下校の途中や地域でも」と呼び掛けており、児童の意識がさらに高まるようにしていく必要があります。質問12「**正しい言葉遣い**」については、学年が上がるにつれて「できる」と答える児童は増えており、保護者の皆様だけでなく教職員からもできていくと感じるようになってきています。質問14「**交通ルール**」については、教職員の評価が大きく下がっています。教職員が見ている範囲ではできているのですが、二列歩行や飛び出しなど、児童の話から報告を聞くことが多くなっています。学級や下校時の指導で安全な生活について折に触れ指導しておりますが、児童が下校後の生活や家庭でも指導したことが実践されるようになるとよいと思えます。登下校時の事故やけがもなく、食事のマナーを守ったり、好き嫌いをなく食べる、挨拶や正しい言葉遣いのできる生活について、学校と保護者が連携して指導に取り組んでいきたいと思えます。

☆質問16から20は、教職員や学校についての質問項目です。質問18「**大切なことを教える**」は、約9割5分(3.8)の子供たちは評価していますが、児童の評価は昨年度より全項目で下がっており、「学校に楽しく通っている」と回答した教員の評価も大きく下がっていることが気になります。「先生は話をよく聞いてくれる」「認め励ますこと」「学校が楽しい」という質問に肯定的な評価ができなかった児童がいることを重く受け止め、今まで以上に児童一人一人に向き合っていきたいと考えています。また、質問19「**学校のことを話している**」と回答した保護者の数値は年々高くなり、今年度は3年間で最高の数値となりました。児童が学校の話をすると感じていただいたことは本校にとってとても嬉しく感じております。しかし、「**学校のことを話している**」、質問20「**学校へ行くのが楽しい**」については、「全く話さない」、「楽しくない」と回答した児童がみられることから、「明日も学校に行きたい」という気持ちで、学校の出来事や友達のこと、先生のことなどを保護者に伝えたいと思えるような魅力ある学校にしていくことの必要性を痛感しております。学校でも家庭・地域でも、大人がよい手本となって子供たちを育てていかななくてはなりません。本校で進めている「地域の方から教えていただく」様々な活動も、そうした力を育てていく機会になると考えます。質問16「**教員は適切に相談に応じてくれる**」という保護者への質問に対し、数値としては大きく向上していますが、不十分だと感じている保護者がいらっしやることも反省しなければなりません。「児童や保護者からの相談に、丁寧に誠実に対応できているか」を、教職員一人一人が振り返り、更なる信頼関係の構築に努めたいと思えます。

☆質問21、22については、小中一貫、地域連携について新たな質問項目です。特に小中一貫教育については学校からの情報の発信不足を痛感しております。下野市として推進して3年目。国分寺中学校区としての活動や取組内容等について情報の発信に努めて参ります。また、学校側の対応など、気になることがございましたら、お電話(44-3161 窓口:教頭)等で遠慮なくお話しくださいようお願いいたします。